報告書

2640 地区第四次災害支援物資輸送

≪日時≫
平成 23 年 4 月 11 日　AM9：30～同年 4 月 13 日
全走行距離 2200ｋｍ

≪行き先≫
岩手県陸前高田市高田町宇鳴石 112-11
陸前高田市災害対策本部

≪使用車≫
・アルファード(2640 地区ガバナー車)
・三菱小型特殊冷蔵冷凍車(竹田運送　堺北西南西ＲＣ、岩崎氏提供)

≪参加者氏名≫
猿田慎男(堺北西南西ＲＣ)、森崎勝(堺北西南西ＲＣ)、田原春剛一（堺北西南西ＲＣ)、堀木智和(一般)、加藤憲一(一般)

主　な　支　援　物　資			
① 鯉のぼり（アルミポール 7.5m 含む）	20 セット	⑩線香(堺北西南西ＲＣ、奥野氏)	1 ケース
		⑪ティッシュペーパー	5 ケース
②みかん類	10 ケース	⑫トイレットペパー	5 ケース
③つけもの類	3 ケース	⑬カップ麺	30 ケース
④黒豆	1 ケース	⑭ｷｬｯﾄﾌｰﾄﾞ・ﾄﾞｯｸﾞﾌｰﾄﾞ（羽衣ＲＣ、下迫浩之氏）	30 袋
⑤さば缶、さんま缶	2 ケース	⑮毛布(富田林ＲＣ)	2 ケース
⑥いわし缶	1 ケース	⑯包丁（堺市より）	76 丁
⑦ミート缶	1 ケース	⑰ちりめん 3 種	10 kg
⑧ツナ缶	1 ケース	⑱もやし(つけもの)	12 コ×3×3
⑨大型ツナ缶	1 ケース	⑲花ごぼう	15 kg

4月11日(月)

AM9：30　G事務所にて積み込みのお手伝い頂いた方々。
猿田、森崎、田原春(堺北西南西ＲＣ)、堀木、加藤、三星(一般)、間宮(堺おおいずみＲＣ)

AM11：30　昼食時、京谷氏と新府会議員、小林氏の見送りを受ける。

ＰM12：30　堺市役所前にて、竹山市長より出陣式を挙行していただく。堺市より包丁76丁を預かり、鯉のぼりに竹山市長のメッセージを書いてもらう。

ＰM1：00　出発。
阪神高速、名神→北陸自動車道
新潟より磐越自動車道→東北自動車道
一関ＩＣ→陸前高田市

移動中にラジオのニュースで震度6の地震発生が伝えられ、高速道路通行止めの知らせがサービスエリアの情報で流れていたため、目的地まで行けるか不安が過る。

4月12日(火)
AM4：00　陸前高田市に到着、車内で仮眠。

AM7：00　車内で朝食。

AM7：30　市内を見廻る。
坂を下り、平地になったとたんに景色が一変する。瓦礫の山と壊れた車等のゴミの集積所と化した街の風景に全員が息を呑んだ。残っている建物は、海辺近くにあるホテル、市役所、博物館等の大きな建物だけで、ＪＲの陸前高田駅等は跡形も無く流されていた。以前にあった道路だけは瓦礫を取り除き、通行出来るようになっていたので、市内を一周してみる。
阪神大震災時の情景とはまるで違う様相に愕然とする。テレビ画面から受ける印象とはまるで違う光景が広がり、つい一ヶ月前に起きた津波の威力に驚く。

AM8：00　支援物資を陸前高田市災害対策本部、学校給食センター内に搬入。

AM9：00　陸前高田市立横田小学校に鯉のぼりを設置。続いて、横田保育園にも鯉のぼりを設置。園児がとても喜び、歓声が上がる。小学校の校庭は、自衛隊の野営地と化し、数え切れない程のテント村になっていた。
その校庭に立てた鯉のぼりが当日、風が強かったせいもあるが、とても力強く

泳いでくれた。
その後、現地の災害救援にあたっている、堺市から派遣された職員に手土産を渡し、激励し別れる。

AM10:00　残りの18本の鯉のぼりを現地ロータリアン、濱崎豊秋氏に預ける。
学校給食センターが仮の市役所になっていて、とても狭く横の連絡が取れていない模様で、我々の20本の鯉のぼり設置等は眼中に無かった様だ。
趣旨説明を現地ロータリアンより教育委員会にしてもらい、陸前高田市の全小学校と保育園等に設置する許可を頂き、現地に残ったボランティア希望の加藤氏にその役が廻ってきた。

AM11：00　現地を後に。次の目的地、群馬県高崎に向う。
私の知り合いで骨董品の雑誌出版社の社長が、余っている雑誌のバックナンバーが沢山あるので、この度の震災支援の役に立てないかと相談を受けたので、引き取りに行く。
東北自動車道→北関東自動車道→高崎ＩＣ→北関東自動車道佐野田沼ＩＣから太田桐生ＩＣ間は、平成23年3月19日開通のため、車のナビには載ってなく一般道表示の為に到着時間が遅かったが、高速道を使えたので、一時間近く早くついた。

ＰM6：00　群馬県高崎市に到着。二台の車に雑誌約2000冊を積む。

ＰM7：00　地元の旅館に宿泊。入浴後食事をし、すぐに全員熟睡。

4月13日(水)
AM6：00　起床。朝風呂、食事。

AM8：00　出発。吉井ＩＣより。
上信越自動車道→長野自動車道→中央自動車道→名神高速道路→阪神高速道→堺着(ＰM5：00)

車の運転は、2時間を目処に交代する。

東北自動車道、上信越自動車道、長野自動車道、中央自動車道の多くは時速50ｋｍ規制に制限された箇所だったが、時速50ｋｍを守って走行している車は一台も無く、ほとんどの車が時速100ｋｍ前後で走っていた。面白い所は、パトカーも時速85ｋｍで走っていた事だ。長い間並走していたが、パトカーの赤色灯を付けて走り始めた途端、他の車も全部時速85ｋｍになり、並走し始めた。
本はとても重量があり、中央自動車道は山間部を走る為に上下道が多く、我々のトラックも上り坂になると急に速度が落ち、Ｇ車との差が何度と無く開き調

整しながら走る。名神高速道路に入ると平坦な道になり、とても走りやすく、他の有料道路の〇〇自動車道なのに、名神は高速道路になっているので、この様な所から名前の付け方があったのかとも思われた。

ＰＭ5：00　Ｇ事務所到着。
積んで帰ってきた雑誌約2000冊を事務所に降ろし、解散。（ＰＭ5：30）

米田ガバナーより労いのＴＥＬを受ける。
竹山市長、危機管理室長前原氏、現地危機管理白水氏、現地ロータリアン(浜寺氏)、堺北西南西会長岩崎氏に帰宅の報告のＴＥＬを入れる。

記
2640地区　ＩＭ8組
ガバナー補佐　猿田慎男

≪支援活動を終えて各氏の感想・報告≫

猿田 慎男
私は、阪神淡路大震災時にも何度となく現地に入り支援活動を行ってきましたが、この度の震災における被害の違いに、驚いております。阪神淡路大震災の時は、壊れた家でもその場に残っていたのですが、津波は全ての物を流してしまいます。平野になってしまった陸前高田市内を見るに、大自然の驚異にただ驚くばかりです。人間が作り出した水道、ガス、電気、自動車、船等が止まった時に起こる弊害をいつも心がけておかねばならないでしょう。

森崎 勝
被災地に行き･･･
陸前高田市の被災地を目の前にし、只々自然の恐ろしさに呆然とたたずむだけでした。
復興をお祈り申し上げます。

田原春 剛一
　地震の発生から丁度一ヶ月目の支援活動でした。
毎日、ニュース番組の画面に目を奪われ続け、私には早いと感じた一ヶ月間も、被災された方や現場の方には苦しく長い時間であったと思います。
恐ろしいほどの重みを、うまく表現する事はとても出来ないと思いますがご報告します。

　１２日夜明け前に現地に到着し、太陽の光の中にみえてきたものは、テレビの画面そのままの、見渡す限りの荒れ果てた瓦礫の山でした。

垣根の様に軒を連ねる背丈を越える位のがれきの山。
家や店の中に突っ込んだ車。
堤防や土手を軽く乗り越え、田んぼや家の敷地内にひっくり返っている漁船。
反りかえるように街灯や電柱に巻きつくような形で動けなくなっている車。
ここは本当に日本なのかと目を疑うような街の姿を体感し、何とも表現のしようの無い、しめつけられるような緊張感に襲われました。

「言葉がない」という例えそのままの、いまだ経験した事のない非現実感に圧倒され、しばらく痴呆のように突っ立っていたと思います。

しかし、そのすぐ近くには津波の被害の無い処があり、何もなかったように穏やかな町のたたずまいがあり、美しい景色が広がっているところもあり。前日、平和な堺から到着した受け入れ姿勢の整っていない者にとっては、不可思議な困惑を覚えました。
テレビ画面では解らない現場の、何とも不気味な匂いとホコリ。
眼鏡とマスクなしでは数分といられないような悲惨な現実。
戦争を知らない世代の私にとって、阪神大震災の比ではない、生まれて初めて目にしたとてつもない大災害でした。
　私達は、たった、数時間の滞在でしたが、現地の方達は何日も続く余震で、不安な時間を過ごされているのだろうと思うと、たまらなく気になります。
私がほんの少しの接した部分を見ただけでも、かなり長期的に支援が必要だと感じました。
このような自然災害は二度とあって欲しくないと強く思い、復興への手助けを出来る範囲でやって行かなくてはならないと思いました。

堀木 智和
支援活動に行くにあたって、今回ほどの長距離を走行した事が無かった事や、万が一事故でも起こせばかえって迷惑になるといった事、経験のない私にできる事はあるだろうかといった不安がありました。しかしメンバーの方々の経験談や市長をはじめとした皆さんの激励を受け、そんな不安も出発してからは直ぐに無くなりました。

　途中、余震による走行予定の道路の通行止めの情報があった際にパーキングエリアでは同じ東北を目指す人達と机を囲んで情報交換や走行プランを考えたりと平時ではなかなか無いような出来事もあったり、運良く計画通りの道を走行する事ができ徐々に被災地に近づいていくにつれて緊張していたのか興奮していいたのか自分が運転していない間も眠気は少しもありませんでした。
　目的地に近くなり峠を越えて下りきった瞬間の津波の爪痕が広がる光景、連日報道で映像を見ていても直ぐに言葉がでない瞬間でした。
今は想像もつかない復興への道ですが、次々と入ってくる全国各地から来てい

る支援部隊を見て復興への意思と望みを強く感じました。

当初の計画通り小学校と保育園に鯉のぼりを設置しに行った際には、自衛隊のテントの並ぶ小学校には生徒はいませんでしたが、保育所では鯉のぼりを上げた直後に園児達の歓声が上がり、その光景を見て私も被災地に来て初めて笑顔になる事ができました。

今回、支援活動に参加する機会を与えて頂き貴重な体験をできました。
又、これからも少しでもできる事をしっかりやっていけるように心がけていきたいと思います。

加藤 憲一
間宮健二氏代理の加藤憲一がロータリー東日本大震災支援物資陸送と配布を下記にてご報告致します。

配布先

1：高田小学校・保育所	2セット
2：横田小学校・保育所	2セット
3：米崎小学校・中学校・保育所2ヶ所	4セット
4：竹駒小学校・同コミュニティ	2セット
5：希望が丘病院	1セット
6：気仙沼町月山神社	2セット
7：広田小学校・保育所	2セット
8：小友町（オトモ）門前公民館	1セット
9：大石公民館	2セット
10：矢作消防団	2セット
	計20セット

食料物資は市役所に引渡し。
以上が鯉のぼりとその物資の受け渡し先です。
尚、支援物資を一ヶ所に運送するのみでは誰も各避難所には配布しませんしそのような組織も手段も存在していないし野ずみ状態の支援物資が手つかずのままです。他地域のロータリーの物資も野ざらし状態で一切の手つかずでした。
支援者が支援者自身で支援者の配送手段を含めてでなければ、各避難所には届かないし、地元の人の同伴がなければ、信用されず物資の受け取りは拒否される所が多いです。かなり保守的になっており他国の者は警戒されます。依って、何らかの公的証明書の携帯が不可避です。
上記のことから私は、地元の方二人の協力を得て各所へ配送しました。
この２名の方の全て自前にて多大なご協力がなければ配布出来ず野ざらしになって居ることと思います。